

長野県木島平村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2025

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 村長や住民の方々に、直接お話をお伺いする機会があります
- 地域の実情を知することは卒業後の職業観やキャリアプランを考えるキッカケにもなります
- グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」（2025 年度末まで存続）の対象プログラム（2 単位相当）です。（注意事項⑩要参照）

テーマ

木島平の“ゆるやかな住民”になれる仕組みを一緒につくろう
～関わる・学ぶ・応援する。あなたのかたちで木島平とつながるプロジェクト～

木島平村では、複数の大学連携プロジェクトや村ならではの自然環境を活かした多様なスポーツイベント、姉妹都市である調布市との交流、フレンドシップ協定を締結する板橋区など、村外の方と多様な接点を有しています。また、近年ふるさと納税も村外の方に村を知って頂く大きな接点の一つとなっています。

しかしながら、せっかく村との接点をもった方がいても、一過性の関係に終わってしまうことが多く、頻繁に村に足を運んでもらえる関係性の構築に至っていないのが現状です。

こうした状況を打破（改善）し、村に何度も足を運んでいただける「ゆるやかな住民」になってもらえる仕組みづくりのアイデア（オンライン上で繋がることのできるコミュニティづくりや村を何度も訪れたいくなるコンテンツやサービスの開発、ふるさと納税を通じた村との関係性づくりなど）を募集します。

木島平村の魅力

木島平村は、長野県の北部（北信濃エリア）に位置し、東京から新幹線とバスを乗り継いで 2 時間ほど、約 260 キロ離れた場所にあります。

日本の原風景ともいわれるのどかな里山風景が広がり、温泉、スキー場、高山植物、紅葉等々、四季折々の表情が楽しめる農村地域です。米作りが盛んで、木島平米はかつて江戸城に献上されていたほどの美味しさ。米のコンクールでは、10 年連続最高賞を受賞しています。豪雪に由来する、清らかな水と肥沃な大地を求めて、季節を問わず訪れる人は後を絶ちません。



募集概要

募集期間	2025 年 11 月 21 日（金）～12 月 7 日（日） 23:59[期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	1. 事前説明会（オンライン）【応募の際には参加必須】 日程：11/21（金）、11/27（木）、12/3（水） 12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス HP および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 3 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会（12:50～13:10／参加任意）も上記日程で実施します。 2. 事前説明会参加後、以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募 ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2025 春編」を検索 ③ 「地域連携ワークショップ 2025 春編募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は 2025年12月23日（火）までにWasedaメール にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは正規授業ではないため、成績評価・卒業単位の認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、長野県木島平村内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないように措置を講じてください。 ⑤ 自己負担費用目安： 往復交通費（17,160 円程度）、宿泊費及び食費等（11,000 円程度）合計 28,160 円程度 〈交通費目安〉東京⇄JR 飯山駅 新幹線/指定席 ※飯山駅⇄木島平村は村の車で送迎 〈宿泊先〉村内の「民宿仲山荘」を利用し、一部宿泊費は村が負担しています。※宿泊先はペット可 ※但し、後日大学より地域連携ワークショップ活動助成金としての補助があり、交通費等の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワorkshop実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、公欠扱いとはなりません。 ⑩ グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」^(注 1) および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 注 1：2026 年 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方は、認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワorkshopでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）： rbso@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間	2025 年 1/20（火） 17:30～20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		1/23（金） 17:30～20:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・チーム発表
③	対面グループワーク @早稲田大学		2/3（火） 15:00～17:00	・ヒアリングに関するレクチャー等 ※10:00～15:00 の間は、参加学生の都合を確認し決定
④	オンラインヒアリング （@zoom）		2/9（月） 2/10（火）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
【事前調査期間】				
・地域やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・オンラインヒアリングの希望先、質問内容等を検討し、2/2（月）10:00 までに自治体へ提出 ・現地ヒアリングに関する事項（希望先、質問内容等）を検討し、2/5（木）10:00 までに自治体へ提出				
⑤	現地フィールドワーク @木島平村		2/17（火） ～2/20（金） 【3泊4日】	・木島平村内の該当施設などを訪問 ・事前に希望した方々等へのヒアリングを実施 【 ひだい 日臺村長懇談：2/18（水）9:30～10:30 予定】
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	追加調査期間	2/26（木）	・中間報告会前にグループワーク ※10:00～17:00 の間で、参加学生の都合を確認し決定
⑦	中間報告会 @早稲田大学		3/3（火） 10:00～12:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	対面グループワーク等 @早稲田大学		3/6（金） 10:00～12:00	・中間報告会での指摘を踏まえてグループワーク等 ※12:00～17:00 の間は、参加学生の都合を確認し決定
⑨	プレ報告会 @早稲田大学		3/10（火） 14:00～16:00	・最終報告会に向け発表練習 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
【追加調査期間】				
・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ				
⑩	最終報告会 @早稲田大学		3/16（月） 14:00～16:00	・首長や自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 17:00 頃となります。

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 一番学べたことは、「人と関わることは面白いことである」ということです。（商学部 3 年）
- チームの仲間と本気で頑張れたワークショップでした。かけがえのない経験ができてとても幸運でした。（文学部 1 年）
- ワークショップ期間には、チームのメンバーだけではなく本当に様々な人と関わるできるので、自分の今までの価値観にとらわれずに新しい視点を持つことができると感じます。（人間科学部 2 年）
- 今回のワークショップの参加を通して、もっと直接的な形で地域を開発したり企画したり運営したりし、より地域と身近なところで地域の事を考えていくということも魅力的だと感じた。（法学部 1 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- チームのみんなが意見を出し合い、尊重し合うことで自分 1 人では導き出せないような提案ができることを学びました。（社会科学部 1 年）
- 多様な考え方や価値観があることを肌で感じることで、相手の主張や意見を頭ごなしに否定することなく受け入れ、自分の中で検討することで、建設的な議論が出来るということが改めて学びました。（文化構想学部 2 年）
- チームメンバーの一人一人の視点や考え方に触れ、自分にはまだない力や柔軟さを学ぶと同時に、自分にしかない視点の大切さにも気づくことができました。（創造理工学部 2 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 私たち若者がアクションを起こせば、応援や協力をしてくれる方もいて、地域と一緒に変えていくことができる可能性があることを大いに日秘めていると実感できた。（文学部 1 年）
- 自分の地元への、地域貢献や地方創生を考えてみようと思えるようになった。（教育学部 2 年）
- 地域課題の解決には単に施策を提案するだけでなく、現場の状況や関係者の多様な視点を踏まえ、柔軟かつ実践的なアプローチが必要であることを強く認識しました。（人間科学部 3 年）
- 「地域貢献」「地方創生」という言葉について漠然としたイメージしか持つことしかできていませんでしたが、このワークショップへの参加を通して、その地域について自分事として考え、継続的に関わるのが地域貢献に繋がるのではないかなと思うようになりました。（基幹理工学部 2 年）